

## 拒絶理由通知書

|          |                          |
|----------|--------------------------|
| 特許出願の番号  | 特願 2 0 0 0 - 3 3 7 8 0 5 |
| 起案日      | 平成 1 5 年 1 0 月 2 7 日     |
| 特許庁審査官   | 渡邊 聡 3 1 4 8 5 C 0 0     |
| 特許出願人代理人 | 金田 暢之 (外 2 名) 様          |
| 適用条文     | 第 2 9 条第 2 項             |

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から 6 0 日以内に意見書を提出して下さい。

## 理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記 of 刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第 2 9 条第 2 項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

## ・請求項 1 ～ 6 / 引用文献 1

引用文献 1 に記載の音声復号化装置と、本願請求項に記載の音声復号化装置とは、平滑化回路に入力するスペクトルパラメータが相違している。すなわち、引用文献 1 に記載のものは、受信した符号化信号を直接用いているが、本願請求項に記載のものは、復号化された再生音声信号から求めたものを用いている。

しかしながら、引用文献 1 に記載の上記スペクトルパラメータとして、符号化信号に代えて、復号化された再生信号から求められたものを用いる程度のことは、当業者において適宜採用し得る設計事項にすぎない。

また、引用文献 1 に記載の発明と、本願請求項に記載の発明との間に、上記相違があるとしても、いずれも、平滑化回路が平滑化を行うとして機能していることにおいて変わることはなく、さらに、上記相違点から生ずる特有の効果を認められない。

したがって、本願請求項 1 ～ 6 に記載の発明は、上記引用文献 1 に記載された

事項に基づいて、当業者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

#### 引用文献等一覧

1. Atsushi Murashima , et al,  
"A Post-Processing Technique to Improve Coding Quality of CELP  
under Background Noise",  
Proc. of 2000 IEEE Workshop on Speech Coding,  
p.102-104, 2000.9

#### 先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野 J I C S Tファイル (J O I S)  
I E E E X p l o r e  
I P C第7版 G 1 0 L 1 9 / 0 4、1 9 / 1 2
- ・先行技術文献
  - ・村島淳, 他,  
"広帯域音声符号化方式の背景雑音音質改善に関する検討",  
1999年電子情報通信学会情報・システムソサイエティ大会講演論文集,  
p. 213, D-14-4, 平成11年8月16日
- ✓・特開平10-083200号公報
  - ・特開2000-235400号公報
- ✓・特開平09-244695号公報
  - ・特開平11-175083号公報
  - ・特開平09-054600号公報

(この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。)

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

整理番号:51910016 発送番号:384377 発送日:平成15年11月 5日 3/E

---

特許審査第四部映像機器 荏原雄一

TEL 03 (3581) 1101 内線3541

FAX 03 (3501) 0715